1.　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	４０７０７０１３３１		
法人名	医療法人　香林会		
事業所名	グループホーム　螢の郷		
所在地	福岡県北九州市八幡西区香月西3丁目　１０－１７ （電　話）０９３－６１８－８８９３		
自己評価作成日	令和　2　年　8　月　17　日	評価結果確定日	令和　2　年　12　月　11　日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町３－１－７
訪問調査日	令和　2　年　10　月　6　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者さんが今まで生活されてきた中で、ご自身の生活スタイルを残しつつ、生活しやすいように支援させて頂く。　入居者さんと1日を通して会話を多くしている。　その会話の中で、ご本人の思いや体調を把握し支援につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然に囲まれ、目の前には公園がある。その公園は多くの地域住民が朝に晩に利用している。同法人の老人保健施設に並び、平屋建てのユニットが並んで建っている。玄関には利用者が書いた達筆な書が飾られ、事業所理念もそこにある。
建物の中に入ると、温かい利用者の笑顔がある。家庭的な雰囲気の中で一人ひとりに目配り気配りし、利用者が安心して生活できているその様子は理念に掲げられたそのものである。
スタッフ間の信頼関係がスタッフと利用者、利用者間の信頼関係につながっている。職員が自分の家族をこの事業所に迎え入れたいと思うところである。

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指す理念を作り、職員間で共有している。　地域とのつながりをもつようにしている。	事業所には地域密着を目指す理念があり、それぞれのユニットにも職員が考案した具体的理念がある。毎月のカンファレンス前にはその理念を唱和し、理念を意識している。人生の先輩である利用者への尊敬を忘れない姿勢は利用者へ伝わり、職員と利用者の関係は良好である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生活の中で必要な物（米、家電など）を地域の店から購入している。　地域での文化祭などに参加してる。　地域のふれあい昼食会に参加している。	事業所は町内会に加入している。市民センターで毎月開催される「ふれあい昼食会」に参加し、地域住民と会話を楽しんでいる。近くの障害者施設とも定期的に交流し、定例の茶話会は障害者施設の方が作ったお菓子で話題が広がる。事業所の行事にも地域のボランティアの参加がある。	
3	―	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で１日カフェを開き、地域の方に来て頂き生活の場を見てもらい理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２か月ごとに地域の方、民生委員の方、行政の方と共に報告、話し合いを行っている。　職員も数名参加し意見交換を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、年に2回は家族会と合同開催している。会議を利用し、地域包括支援センターの保健師の講話を開いたり、事業所見学会を実施している。事故報告があった際は、一緒に原因究明を行っている。会議で手すり設置のアドバイスがあり、設置を行う等サービスの向上につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ＧＨ協議会主催の行政との意見交換会に参加して、アドバイスを受けている。	行政とは介護保険の申請等で訪問した際に挨拶を交わす程度だが、必要時には相談できる体制は整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月１回のカンファレンスで身体拘束についての話し合いをしている。　身体拘束を行う場合はご家族の同意書を作成し、拘束に関する経過などは記録に残している。ご本人の安全確保を最優先にしている。	玄関に鍵はかかっていないので、気軽に訪ねることがことができる。外出傾向の利用者とは興味を持てるものを探求し、一緒に歌を歌い昔話しに花を咲かせている。散歩に出かけることもある。毎月身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束に関する勉強会も年に複数回実施している。	

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法についての研修に参加し、職員間で情報を共有している。虐待の危険性を早期に見つけ対応して行くことに努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修に参加し、学んでいる。これらの制度についてご家族、御利用者様に伝えている。	権利擁護制度の研修は、外部・内部研修会を通じ実施している。外部研修後は必ず伝達研修を行い全職員は学ぶ機会がある。玄関にはパンフレットが置かれている。	利用者や家族に制度の説明を行う機会がない。契約時や家族会等を通じ伝えていくことを期待します。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時は契約内容についてわかりやすく説明を行っている。　納得を得たうえで契約を進めている。　当初の契約内容が変更になった時には、その都度説明を行う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年２回家族会を開き、御家族の意見、要望などを引き出す場面を作っている。　運営推進会議でもご家族に参加してもらっている。	利用者には、テレビを観ているとき、食事をしているとき等日常生活の全時間を通じ声かけを行い、その情報は職員で共有している。今年は外出が難しいので中庭に季節の花を植え鑑賞したり、入浴時には、季節を感じる催しを行っている。家族は面会時や「螢の郷だより」で本人の様子を伝え、情報交換を積極的に行っている。月に2回の相談員訪問は利用者からの相談や苦情を含め活用している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の考えを言い合える職場環境である。　職員の提案は常に出し合える職場である。	職員は、日常的に運営に関し積極的に意見や提案を言う機会があり、それが取り入れられている。連絡ノートを活用しケアの統一等に役立てている。法人内では定期的に人事異動があるが、ユニット間は日常的に交流があり、多くの支援者からサポートを受ける体制がある。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、休み希望を作る事により働きやすい勤務状況にしている。　入居者様の担当を持つ事によりやりがい、向上心を持って働く事ができるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用は性別、年齢などを理由に採用対象から排除することはない。職員は、得意なこと（物作り、片付け等）を入居者の方と共に行い活き活きと勤務している。	職員が働きやすい環境を整えるため、休みの希望に合わせ勤務を調整している。資格取得は積極的に応援している。それぞれの職員が得意分野で力を発揮できるよう適材適所を考慮している。また、職員を育てる取組として、各職員の求められる段階に応じ、研修の受講に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修に参加し勉強会で伝達し意見交換を行っている。	人権教育及び啓発活動の取組がなされていない。しかし、認知症介護実践リーダー研修において認知症の権利擁護について学ぶ機会があった。	利用者、職員等それぞれの立場において人権を尊重するために学ぶ機会は大切である。テキストの設置、研修会の実施を期待する。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った法人内外の研修に参加している。　介護福祉士などの資格の取得に対しても、働きながら進めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の老人保健施設との行事に参加している。　ＧＨ協議会に加入し研修会に参加し他のＧＨの方と交流している。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方とは常に会話をして傾聴し、今、思っていることを把握している。安心して生活ができるように支援している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会などで来られた時は日頃の生活のことをお伝えし、ご家族の要望があればお聴きし、何でも話せる関係作りをしている。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の方の「今」の身体の状態を把握した上で必要な支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方と共に生活をしながら会話や日常動作を行い喜怒哀楽を共にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時にお話しを聴き、こちらからも積極的に会話の機会を持つようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけではなく知人、友人、同僚だった方などのことを会話のなかで思い出して頂くようにしている。　　また、内容によってはご家族にお伝えし話しが広がるように情報を頂いたりしている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係情報は入居前から収集し、入居後の日常を通じて更に聴取している。いつも行っていた馴染みラーメン屋に行き、当時を懐かしむ入居者の様子を喜んだり、生家を訪ねるドライブも企画している。バスの運転手だった伴侶を思い、窓から隣のバスセンターのバスに挨拶する様子を見守っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士が仲の良い関係作りや会話が弾むようになるために職員が話題の提供を行い孤立しないように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご希望に応じて相談や支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の思いや意向を会話の中から引き出し、把握に努めている。　困難な方には、生活歴を基にご家族からの話しを通してご本人の思いをくみ取るようにしている。	利用者の顔の表情や日常会話から、その方の思いや希望の把握に努めている。介助する際には、常に声掛けをして、会話が出来ない方で目をつむったままでも、頷くなどで返事をしてもらい意思を確認している。家族等から以前の生活様子を伺い、本人の意向を確認している。パン好きな方の昼食をパン食に変えたりしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族から、プロフィール、生活歴、生活情報をお聞きして職員全体で情報を共有@している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、介護記録を毎日記入しその他の変化（体調、言動など）があれば、連絡ノートに記載し常に新しい状況、状態の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に１回、ミニカンファと全体のカンファを行い、ご本人、ご家族からお聴きした意見、要望などから課題を見つけ検討している。モニタリング、アセスメントを介護計画変更時に行い見直しに反映させている。	ミニカンファレンスで担当職員が、職員間の情報をまとめている。月1回のカンファレンスで、職員全員で意見を出し合い、最終的に決めた介護計画を共有出来るように周知している。4ヶ月に1回または、利用者の状態の変化に応じて、介護計画を見直し、本人又は家族の同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や体調の変化など、記録に残し職員間で情報の共有に努めている。　カンファレンスで意見交換を行い計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて、身体機能維持につながるサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方に必要な物や食材の買い出しは近隣のお店で行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診などは、介助を行い受診結果などはご家族に電話で報告している。	同法人の病院が協力病院になっており、かかりつけ医として受診したり、往診に来てもらったりしている。その際、家族に受診内容を電話で伝えたり、面会時に伝えている。入居前のかかりつけ医を希望する方は、引き続き同じ医療機関で受診し、受診の際には看護師が病院まで送迎をしている。家族が同行するときは病院で待ち合わせている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の方がいつもと違う様子の時には、看護師に報告し指示を受ける。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より入居者の方の状態を医療機関と共有し、連携に努めている。　入院時には、医療機関と細目に連絡を取り病状を把握し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時よりご家族との関係をしっかりと築くように努力している。　重度化や終末期の対応について、ご家族の意向をしっかりとお聞きし、その都度、状態、状況を説明し事業所としてできることをおこなっている。	重度化や終末期は、入居時に説明し、実際の時期には再度説明をしている。希望に応じ看取りまで行っている。その際は、連絡ノート、介護記録に状況を詳しく記入し、職員間の情報共有に努めている。また、家族に対しては、状況の変化に合わせて説明している。緊急時には、協力病院からの往診がある等、医療体制も確立している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも見ることができ、応急手当や初期対応ができるようにしている。　救急蘇生やＡＥＤは研修会に参加し、勉強会で伝達講習をしている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は夜間を想定し年に２回実施。　風水害などの自然災害については、避難場所や方法をカンファや勉強会で確認し、最低でも年に１回以上の避難訓練を実施している。　入居者の方にも参加をして頂いている。	火災、水害を想定した避難訓練を年2回実施している。その内の1回は夜間を想定しての訓練を実施している。しかし今年はコロナ禍で感染防止のため中止した。代わりに手順書などの資料を作成し、回覧して職員に意識付けを行った。7月の大雨時にグループ施設の隣の老人保健施設に実際に避難した。その際に必要な備蓄について、新たな気付きがあり、備蓄を充足させた。	
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の人格を尊重し、その方にあった声のかけ方や介助方法を心がけている。入居者の方のプライバシーを守るような配慮に努めている。	トイレ介助や入浴介助の際に異性介助を嫌う利用者に対しては、極力、同性介助を行うようにしている。他のご利用者がいる所では、大きな声でトイレ誘導をしない、トイレのドアは閉めるなど基本的な事も徹底するように、2ヶ月に1回の勉強会の時に目標を立て、職員に意識付けをしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でご本人の思いや希望を感じとり、自己決定をしてもらえる環境作りに努めている。　意思表示を充分に行うことが出来ない方は、表情や行動からその方の思いをくみ取り、選択肢を提示し自己決定ができるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	１日の流れはある程度決まっているが、１人１人、その時のペースでその方らしい生活が送ることができるように支援している。　急がせたり、業務優先にならないように気をつけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、又定期的に訪問理美容の利用を行っている。　ご自分で選べる方は洋服を選んでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや嚥下状態を把握した食事作り、「食べる事」を楽しむことができるように提供している。　行事食は事前に希望を聴いている。　テーブル拭きなど出来る範囲でして頂いている。	以前は、近所のスーパーに利用者と一緒に買い物に行き、買って来た食材で調理していた。しかし、コロナ禍で感染予防の為に買い物を控えるようになったため、最近は、週3回の夕食時にご利用者の好みの物を職員が作り、提供するようにしている。また、盛り付けや下膳など、利用者が出来ることはやってもらうようにしている。	

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバランスの良い食事を考えている。個々の状態に合わせた食事や水分を提供している。　食事や水分量のチェックをしている。　毎月、入居者の方の体重測定を行い健康管理に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行っている。　ご自分でできることはして頂き、ご自分で出来ない方は出来るところまでして頂き、その後仕上の歯磨きを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄の状態を把握している。　なるべくトイレでの排泄を実践している。その方の状態に合った下着や紙パンツを選び、パットは排泄パターンに合せて使い分けをしている。	トイレで排泄をしてもらえるように、排泄表をチェックしたり、時間で誘導している。利用者が出来る事は自分でしてもらい、必要以上にトイレの中に職員が入っていないようにしている。トイレ誘導の際は周りに気づかれないように誘導し、居室で交換したパットは新聞紙で包む等、周りに気づかれないように配慮している。皮膚トラブルが起きないように、利用者に合わせたパットを選んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は排泄チェック表で確認している。室内の散歩や体操で自然排便ができるように支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は体調に合せて、2日に1回の方と3日に1回の方がいる。　その方に合せた入浴方法にしている。　浴槽に入りゆっくりした時間を過ごして頂いている。	毎日、午前午後と入浴出来るようにしており、基本的に週3回は入浴してもらっている。入浴を拒否される利用者に対しては、その方が部屋を出て歩いているタイミングで声掛けをしたり、声掛けをする職員を変えたりして対応している。それでも拒否される場合は、時間や日にちを変えて誘ったり、着替えの時に清拭をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や湿度や物音に気をつけて、安心して過ごして頂けるように環境作りをしている。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように名前をお呼びし薬袋の名前を確認してから服用して頂いている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が出来る方には、洗濯物を干したり、畳んだりされている。レクリェーションに参加したり散歩などで気分転換もされている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナのために外出できていない。以前は近隣の店に化粧品を買いにいったりしていら。	コロナ禍になる前は、月1回はドライブで外食したり、近所のスーパーや薬局に買い物に行ったりしていた。また、イオンで食事して、ペットショップで動物を見たりもしていた。現在は、施設周辺を散歩したり、事業所前のベンチに座り、事業所前の公園で遊ぶ子供の声を聞きながら、日向ぼっこをしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人、一人ご家族より「おこづかい」としてお金をお預かりしている。　ご希望に応じていつでも使うことができるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればリビングから電話をかけることをお手伝いしている。　ご家族からの手紙はお渡しするが、入居者の方からご家族へ手紙を書くことはほとんどない。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるようにリビングの壁に季節の飾りをしている。　整理、整頓、室内の明るさ、空調の管理、物音など入居者の方にお聴きしながら行っている。	全体的に和風な造りで、居室のドアに和紙風な窓があったり、居室の窓に障子がある。手すりは目立たないが、ちゃんと掴んで歩ける造りになっており、家庭的な雰囲気を出している。また、和室から観える庭に花を植えたり、毎月ご利用者が壁紙を作り、季節感を感じられるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味、趣向に合ったレクリェーションの提案をしている。　気の合う入居者の方同士の座席を考慮し過ごしやすい居場所づくりをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居される時に、家具や衣類など日常で使っていたもの、身につけていたものを使って頂くようにしている。　今までのなじみの物を使う事で、自宅とかわりなく生活が送ることができるように環境を整えている。	居室の中の物はすべて利用者の物を持って来てもらい、馴染みのある家具で過ごせるようにしている。危険なく、自由に居室の中を歩けるように配置をしている。家族の写真や手型など、利用者の置きたい物を置いてもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々をご自分のペースで動いていただくように、居室、トイレなど分かりやすく表示をしたり、日時の確認を挨拶で意識して伝えるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,21）		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働けている。（参考項目：11,12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作り、管理者スッタフは共有し実践して行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭り、交流会への参加、買い物などで地域とのつながりをもっている。		
3	―	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な地域への働きかけはできていない。　入居者の方と一緒に近隣のスーパーへ買い物に行ったりすることで「認知症＝何も出来ない」ことではないということを、分かってもらうことがでたらと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度民生委員、行政の方々に参加して頂き、報告や意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室情報を知らせている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一回身体拘束廃止に向けて検討会の開催、研修会への参加し、拘束になっていないかなど話し合いを行っている。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修への参加、グループホーム内での勉強会を実施し虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、グループホーム内での勉強会を実施し理解の場を作っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容をわかりやすく説明し、十分納得理解をされたうえで、入居契約の手続きを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などを開き、意見や要望などを聴く機会を作っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の業務改善の会議の時に提案を聴いたり、またいつでも運営に関する話ができる環境になっていると思う。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望を聴いたり、有給休暇を使うなどし職員の負担の少ない勤務状態にしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については性別、年齢などを理由に排除することはない。　資格を取得するための勤務希望に対応したり、行事のときなどには得意な分野を発揮してもらったりしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会や勉強会を通じ学び、人権尊重に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合せ、研修などに参加してもらい、スキルアップの機会を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加や協議会での交流の機会を、作っている。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、本人の現状を把握し安心して過ごしてもらえる様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時などに、日常生活の状態を伝え家族からの要望にも耳を傾け、関係作りにつとめている。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現在の状態を把握して、今必要な情報を伝えたり支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に話しをせず本人の話しに耳を傾ける、そこから共通の話しをする。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で、今は家族の方とあまり話が出来ていない。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、面会は少なく（窓越し）外出も出来ない状態		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いご自分が好きなように暮されている。　トラブルになりそう時はスッタフが間に入っている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、他の親族のことや知人のことで入居の相談や、介護施設に関することなどで相談を受けることがよくある。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	話しや要望を聴き、希望や意向の把握に努めている。出来ない事などは、出来ない理由を説明したり他の方法を考えたりしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集み努め、基本情報を読み共有したり、本人にも聞く等行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を読んだり、連絡ノートで情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミニカンファレンスなどで小さな課題でも、その都度話し合いを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	大まかには記録に残しているが、もっと細かく記入していき必要があるように思う。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまり柔軟に行えていないと思う。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり地域資源は活用できてないように思う。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナの感染防止のため、看護師が主治医に報告を行い指示を受けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことは日誌や直接、報告を行う。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合には、病院の担当者と連絡を密にとり、早期の退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に看取りのことは説明している。　実際、重度化や終末期が近づいた時には、ご家族と十分に話すようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法の勉強会を１年に１回実施している。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は１年に２回実施。　今年はコロナの感染防止のためまだ実施していないが、手順などは書面上でスタッフ各自がシミュレーションできるようにした。風水害の避難訓練は７月の大雨時に、隣の建物（老健施設）に４回実際に避難を行った。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った対応や声かけを心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や外出先など希望を聴いたりしていたが、コロナ禍で外出もできていない。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝食はある程度時間は決まっているが、入浴や食事の時間をずらしたり、ご本人のペースに合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、ご自分で着替えをえらんだり、離床時身だしなみを整えたり、ご自分で髪を整えことが出来る方には、ブラシを手渡すなどしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分で食べる事ができるように一人一人に合った食事形態で提供し、テーブル拭きなど出来る方にはして頂いている。		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合せた食事量を提供している。食事量の少ない時には、補食などを行い対応している。　水分は毎食時と１０時、１５時に水分摂取をして頂いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きをした後、１人１人に合った歯間ブラシやマウススポンジなどを使い確認（仕上）をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声かけを日中、夜間とも行っている。　夜間帯はトイレに行く事が困難な方はパット交換で対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認をしている。　ユニット内散歩を積極的に行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴拒否のある方は無理をせずに翌日にしたり、午前午後で違うスタッフが声をかけたりしている。　時間帯に制限はあるが、入浴時はゆっくり入って頂けるようにしている。　ご本人の関心のあることなどを話しながら入浴をして頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後で体調に合せて臥床をして頂いている。　レンタルの寝具を使う方は、枕だけはご自分の使い慣れたものを持ってきて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方の状態や変化は記録に残し、必要時、看護師に情報提供をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方一人、一人に合ったレクなどを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数のケアだが一人一人の本人さんの希望による外出は、職員の人数によっては難しい。　月に１回、行事があるため外出支援はできている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のお金なだは、事務所で管理している。　入居者の方からご希望があれば、預り金より購入している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方から電話や手紙のやり取りはできていないが、月に１回広報誌を発行しご家族に、日常の生活を報告している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナの影響で外出や面会の自粛をしている中、季節感や世の中の移り変わりを施設内でどのように伝え感じていくか、少しでもストレスの軽減を図り、今まで以上のコミュニケーションや話題の提供を図っている。　行事の写真の掲示。　入居者の方と共同作成した壁面飾り。　日々、消毒、室内換気、温度管理		

自己評価および外部評価結果

令和2年12月11日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間での共同生活、他者との交流の中、トラブルがないように入居者の方の要望や楽しみ、生きがいを導き出し一人一人と向き合い個々の対応に努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の居室には、使い慣れた物を自宅から持ってきて頂いている。　又、ご本人が過ごしやすいように、ソファーやテーブルなどを配置するなど工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内は回廊状になっており手すりもある。　又、室内は段差がないので、お一人でユニット内を散歩したりスタッフと歩行練習を行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,21）		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働けている。（参考項目：11,12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない